

都市デザイン交流会フォーラム2014 隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える

パネルディスカッションの部：

- パネラー
宮沢 功
尾登誠一
杉山朗子
- コメンテーター
中井 祐
中野恒明
小林正美
谷内加寿子
- 司会進行
吉田慎悟

□吉田

パネルディスカッションの司会進行を努めます吉田です。どうぞよろしくお願い致します。今日はこれまで、いろいろな観点から議論が進んできました。このパネルディスカッションは色彩も検討するので、デジタルキアロさんに吾妻橋のCGをつくってもらっていますので、後ほど、そのCGを使って具体的に吾妻橋の色彩を見ながら一緒に考えていこうと思っています。

最初は私から吾妻橋の周辺の状況等について少しお話しします。今日、手元にお配りした資料の中に、GSデザイン会議の素材色彩分科会の方たちが、隅田川に架かる橋梁の色彩を調査してくれた結果が入っています。

色彩はいろいろな方法で数値化することが出来ますが、この資料では色相、明度、彩度という3つの属性で色彩を表すマンセルカラーシステムを使って、橋梁の色彩を数値化しています。橋梁の色彩は退色もあり、時間とともに変化しますので、現時点での色彩を特定したこの資料は、今後貴重な資料になると思います。あとでゆっくりご覧になって下さい。素材色彩分科会は、マンセル色票を現場に持って行って、それぞれの橋に近接させて、正確な色彩を測ってくれました。その色値が書いていますので、後で吾妻橋のCGを見る時も参考になると思います。

さて、現在の吾妻橋の色彩はこのようになっています。このほとんど原色の赤も経年変化によって退色してあり、彩度が下がって来ています。退色は一般的に原色が少しずつしらっちやけてきます。彩度が下がって、明度が上がります。明るくなって鮮やかさが減るということです。現場に行くと分かりますが、この写真だと左の奥の方ですが、この辺は塗り替えられたばかりらしく、まだ原色の赤に近い色が残っています。今日はこの写真のアングルでパネラーの三人の方に具体的な色彩の提案をしてもらおうと思っています。

この写真は駒形橋で、ブルーで塗装されています。そしてこの写真は厩橋で緑に塗装されていますが、駒形橋のブルーと蔵前橋の黄色の中間の色彩を使って、グラデーションで色彩が変化していくことをねらっています。これはその黄色の蔵前橋です。白鬚橋は白い鬚の色を塗装しているらしいのですが、蔵前橋は御米蔵があったということで黄金色に塗られています。

先ほど中野さんの話の中で、吾妻橋は赤の前は明るいブルーだったという



話がありましたが、その赤も現在のような原色の赤ではなく、もう少し彩度が低い赤だった時期もあるようです。この写真は私の友人である日本色彩研究所の方が著名橋の整備事業に協力して実施した塗装色です。現在の赤よりも彩度が低く、2.5R4/9というマンセル値で指定されています。台東区では浅草寺等にベンガラ色がよく使われていますが、この色はベンガラ色とまた少し違う「小豆色」とも呼べるような色調です。著名橋の整備事業が計画されてから25年以上経過していますが、その半分程度の年月は、現在の原色の赤ではなく、「小豆色」が塗られていたということです。その「小豆色」で塗られた吾妻橋の写真です。この見え方で彩度が9です。現在の赤はほとんど原色に近く彩度12程度です。

この写真は吾妻橋のものではなく、日本色彩研究所が持っていた資料で、清洲橋の塗装の断層写真だと思います。先程、中野さんから塗装の擦り出しで色の変遷が解るという話がありましたが、これは塗装面の断層写真で、顕微鏡で見て昔使った色が特定出来るそうです。

この写真は変色してしまっているので、元の色はよく分かりませんが、顔料の組成等を調べればある程度の色が解るのだそうです。

あとの写真は、皆様、ご存じだと思いますけど吾妻橋周辺の景観です。スカイツリーが完成し、吾妻橋で写真を撮る人が増えました。また川も賑やかになってきて屋形船も見えますし、セヌ川のバトームッシュのような観光船も人気があります。

吾妻橋周辺の建物はこのような色彩です。東京都では大規模建築物の色彩基準を策定して色彩をコントロールしています。大規模建築物はあまり鮮やかな色を使わないようコントロールされています。これは浅草のシンボルとなっている浅草寺です。少し彩度を落としたベンガラ色が使われています。浅草寺は最近、屋根も葺き替えてきれいな灰銀色になりました。浅草寺周辺ではベンガラ色が、防護柵等にも使われています。

最後に、最近塗替えられた両国橋を紹介しておきます。東京都の管理ではないと思いますが、去年塗り替えられて色彩が変わりました。この写真は親柱ですね。そして以前の両国橋はこのような色彩でした。橋梁の地覆の部分は赤いカバーで被われていて、見晴し台のところで大きく彎曲していました。この写真では橋梁本体はグレーですが、以前は緑色で赤い地覆と緑の対比がきつかったことを覚えています。その配色が最近このような色に変わりました。塗替えの時に赤いカバーを点検してみたら、腐蝕が激しく撤去したということです。暖かみのある落ち着いたグレーに明るいオフホワイトのラインが効いています。このように吾妻橋を取り囲む周辺環境も変わって来ています。

さて、私の話はこれくらいにして、パネルディスカッションを進めたいと思います。今日の進め方ですが、まずパネラーの御三方に、吾妻橋を含む橋梁の色彩を考える際にどのようなことに配慮すべきかを聞いてみようと思います。時間が少なくて申し訳ないのですが、それぞれ5分くらいでお願いします。この中でご自身の仕事等、自己紹介の足りない部分も入れて下さい。この意見を伺った後に、CGカラーシミュレーションを使って、各自の考え方に従った色彩提案を、基本的には一人一案ずつお願いしようと思います。その後、コメンテーターから、パネラーの色彩提案に対してコメントをいただきます。時間が許せばコメンテーターからも色彩提案を受けることが出来るかもしれません。そして会場との質疑応答、そしてCGシミュレーション案に対して会場の方々にアンケートをお願いしようと考えています。



対象橋梁		報告書作成日
清洲橋		昭和61(1986年)3月 決定色：6PB 3.5/7
永代橋		昭和62(1987年)3月 決定色：5PB 6.5/5
吾妻橋		平成31(1992年)1月 決定色：新 2.5R 4/9 高橋・野崎打・歩 歩車道分岐線 5R 3.5/8



では早速、宮沢さんからご意見ををお願いします。



宮沢

宮沢です。こんにちは。色々考えてきたのですが先ほどの3人の先生方のお話でほとんど言われているような気がしています。まず、お題をいただいた時に私自身も隅田川の橋って色々な色があるな—と聞いていましたが、ほかの橋を含めた全体としての色を考えないで、吾妻橋のみについて赤が良いとか悪いとかという話をするに非常に抵抗感がありました。今でもそういう抵抗感があります。

今までのお話のように、例えば中井先生がおっしゃられたような、当初、橋を設計した技術者の方々が最初からまち与の関係を意識しながら作られたという話がありました。それから東京都の谷内さんの話の中でも、周辺の状況や地域性を表現するとかあるいは、ランドマーク的な話であると言うような、いくつかの大事な視点が言われています。ですから、あとで私の案をお見せしますが、これは検討の順番が前後しておりまして、やはり最初に3人の先生方が言われたようなことをちゃんと精査した上で、個々の橋の在り方を位置づけ、意味付けを行いその上で吾妻橋はどの様な色がいいのかという議論にならなければいけないのだと思っております。前提としての検討がなくして吾妻橋の色をどうしようという話はなかなか難しいと思います。

私自身はプロダクト出身で、街の中にあるストリートファニチャーやサイン、屋外広告という視点から見た街の景観に非常に興味を持っており、いろいろなところで研究なり活動をしております。そういう目から見ると、橋そのものの構造であるとか、歩行視点から見える街路灯や高欄であるとか、橋を通して見える対岸の街並との関係、橋を離れた川岸から見える橋の全景やボートに寄って連続的に見える橋と橋梁下の景観など多くの検討課題があります。中でも最小限、遠景として街の景観の一部としてある状況と、橋を渡る歩行者の視点から見た景観の2点が大事ではないかと思いました。

今回は前提の話がない状態での吾妻橋の色彩検討ということで、今までの経緯と現在の周辺状況を前提として現在の赤をベースとして提案いたします。今回はこの景観(遠景からの橋の全景)でというお話がありましたが、今スライドにありますような歩行視点を加えていただきました。現在の吾妻橋が建設された時は、このような朝日ビール本社の建物や金色の屋上のモニュメント、あるいはスカイツリーというものはなかったわけです。都市というのは周辺がどんどん変化しているわけです。ある意味生きているというわけです。都市の中で歴史的な資産である橋はどうあればいいか。歴史的な視点での位置づけが大事であるということは当然ですが、その上で今の浅草はどういうイメージなのか。地域性とはどうなのか、他の橋とのストーリー性とはということを考えていく必要がある。ですから博物的な意味合いだけではなく現在我々が使っている橋という視点で考えるべきだと思います。

隅田川の橋で大事なことは、何人かの方々がおっしゃっているように、私



も何回か、隅田川の船に乗って上下したことがありますけれど、東京の中で水辺の視点からこれだけの橋を連続して眺められるというのは、本当に数少ない貴重な都市景観だろうと思うのです。しかも橋そのものもそういうことも意識してつくられたという話もあるわけですから。この連続景観というもののストーリーを抜きにして考えられないのではないかなと思います。

もう一つ、先ほどの色々なお話の中で、ヨーロッパの景観、特にパリの橋の景観などが出てきております。私は日本の景観を考える時にいつも思う事があります。それは建設当時の街並としての背景が全く違うということなのです。吾妻橋も兩岸どちらを見てもほとんど広告物が目に入ってきます。屋上の広告物が入ってきます。これは東京都の屋外広告物条例でコントロールはされているのですが、パリとかロンドンとか理想的な景観と言われている街の景観と一番違うのはこの屋外広告物と連続した建物景観です。これが良いとか悪いとかではなくて。まずそういう背景を前提にした上で橋梁が街の景観構成要素としてどうあればいいのか、それを考える必要があります。沢山考えなければいけないことはあるのですが、一つずつ議論を重ねていった上で、あるプライオリティをつけて何が一番大事なのか、建設当時の姿か、連続性が大事なのか。構造を解りやすくすることか、あるいは地域性が大事だとか。橋梁の色を考える前の条件をちゃんと吟味した上で一つ一つの色を考えていく必要があるのではないかなと思います。



吉田

どうもありがとうございました。
次に杉山さんをお願いしたいと思います。



杉山

杉山と申します。私は実は台東区の景観アドバイザーもさせていただいております。ちょうど昨年下町塾というのが21回目でしょうか。台東区さんがずっと続けられているまちづくり、まちの研究という会がございますけど、その時にまちの色を探ろうというワークショップさせていただきました。そのことも中に反映させて、台東区または浅草という土地柄という中で色を考えられないかなということをお話をさせていただこうと思います。バタバタ作ったスライドなのでお見苦しい点もあるかもしれませんが御了承していただきたいと思います。

私どもは景観色彩の計画に携わる場合には風土性、歴史性、心理性、経済性を基本に考えておりますけれども。今日は前半にきちんとした歴史性ということでお話いただきましたけど、私は生活文化という面、人々の気持ちというところからお話を進めたいと考えております。私もかなり橋は関わらせていただいて、色々な東京都の橋の色彩をやらせていただいておりますので、墨田区のみなさまには恐縮なのですが、台東区側からの視点ということのお話でございます。風土の色、生活の色、人々の心の色なのですが、みなさんご覧いただくように雷門の色というのは重要なカラーになっていて観光客みんなが見るものにも使われています。例は交番の屋根なのですが公共の施設等々にも緑青色とプラス赤というように使われています。基本的にはベンガラ系でお考えになっているのだらうと思います。

ところが70人弱来ていただいたと思うのですが10月に行ったワークショップ下町塾という中で皆さんにお店の色を写真から見て、まとめていただくということをやってみました。そうしますと商業施設、店舗とい

景観色彩計画の4つの視点

- 風土性
- 歴史性
- 心理性
- 経済性

浅草は派手な色、派手な和風？



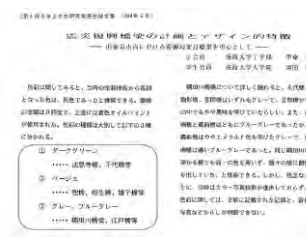
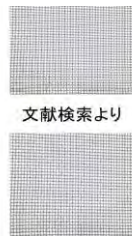
浅草のお店の色使いは、白地に黒文字ですっきり
差し色に 赤



浅草のお店の色使いは、白地に黒文字ですっきりと
アクセントに、ピリッと赤を効かせる。
木製看板や季節を感じさせる植栽をあしらってもなし感覚
にぜひ楽しめ



2013年台東区下町塾ワークショップから



提案の方向性

洗いやあるいはブルーグレー

くらいあるだろうというようなことがわかって参ります。これは一応現在です。かなりすごいかなという話は時々、出てまいります。色々なセミナーや場所で私も鮮やかですよねっていう話をしています。その中で先ほどの江戸友禅ではないですけど、錆朱というような洗いやベンガラのような、彩度で6~8ぐらいのやや暗めというのでも考えられるかなと思います。

もう一色として、ブルーグレーという伊藤先生の論文をもとに今でも色々残っている鋳物の色などで使われている中の一つをピックアップしてみました。細かくは書いていません。その中でピバコンピュータさんというところにシミュレーションをお願いして、水上から見えるところは洗いや赤で、特に気になるのが、せっかくのスカイツリーといったものと金斗雲ビルがあまりにもバッティングするのではないかということで橋の内観というと変でしょうか。橋上の色ということでは、みなさん見て右側のほうの照明柱の色などは普通の都市の色という形でおやりになるようになさるといいとおもいます。歩道と車道の境の柵なども本当に赤で、全部一体でなさっているので少し調整などなさっていかれるのがいいのではないかと考えております。また私も全体で考えていくべきだと思っております。勝手にシミュレーションをつくらせていただきました。浅草の吾妻橋をベンガラ系にして主役にさせていただきたいと、ここはみなさんをお願いする次第です。勝手なことを言っております。観光地としての浅草は、非常に人を集める力がある場所だと思います。

周辺は、藍、それからブルーグレーの濃淡ということで、川上側にベージュ群、ブルーグレー群のような濃淡ということで一体型にする。そんな隅田川景観なんていうのもつくれたらいいのではないかとということで、考えました。長々とお時間ちょうだいいたしました。やはり周辺の生活文化から、そして具体的なまちとのバランスみたいなこと、非常に形のきれいなアーチ型の橋の足元ですので、それを生かすということを含めて、このようなご提案ができればいいなと思えました。きちんとしたシミュレーションは後ほどデジタルキアロさんのほうのシミュレーションで見せていただけるかなとこんな風に思っております。どうもありがとうございます。

吉田

ありがとうございます。

カラーシミュレーションまで行ってしまいましたね。次は尾登さん、お願い致します。

尾登

尾登です。本日のフォーラムは、公共の色彩の考える会への呼び掛けもあり、少し会の宣伝をします。毎年11月中旬に、芸大で環境色彩フォーラムを企画していますので、もし機会がありました、そちらのほうにも是非ご参加いただきたいと思います。

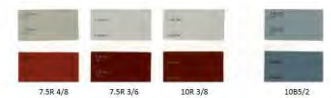
■周辺で用いられているベンガラや朱の測色



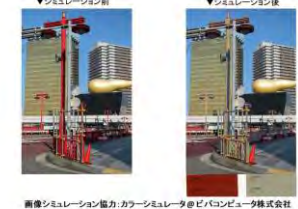
■現状の色彩の確認



■洗いや、ベンガラ、錆朱



◆橋上は周辺より控えめに



私の橋梁色彩計画を行う際の考え方ですが、他の先生方と同様にヒトモノ場の関係性を基本にしています。まず、場の観点としては、環境特性の把握を起点としています。ここでいう環境特性とは、歴史性や時代性、そしてロケーションに関わる地域特性、および、自然景観や人工景観、また視点場からどのように眺望されるかという景観特性が含まれます。

次にモノの観点ですが、現場で計画対象となる主体の特性、今回の場合の対象は橋梁の特性ということになります。この観点は重要で、橋梁に関しては構造や造形美に関する把握が必要と成ります。私も何件かの橋梁色彩計画を経験しておりまして、昨年、竣工しました東京ゲートブリッジ（ゲルバートラス橋）の色彩デザインを何色か提案させて頂きました。結果は、本意（ナイトブルー）に叶わずホワイト案が採用されました。推奨色は、巨大トラス橋の構造美・橋梁美が、どう観ても男性的でハードなイメージでしたので、これに相応しい色を考えた。橋梁美を生かすことにこだわり、ナイトブルーが最適色だったことを憶えています。色彩はモノや空間に塗られて適否を判断される。この意味からも対象特性は非常に重要だと思います。

そして最後にヒトに関する観点、橋は人や車が渡って橋であり、いくなれば多様な生活性を読む必要があります。どのように人を渡らせ、橋と関わらせるのか、これも非常に重要な観点です。そういう点から言いますと、快く渡らせるとか、渡るシーンに物語性を仕組ませるものの必要性を感じます。黒澤明の「夢」という映画の中に「アルルの跳ね橋」がでてきます。それは、ゴッホの跳ね橋を背景に登場する洗濯女との会話シーンや、のどかな田園風景が夢の世界として描かれている。先ほど此岸と彼岸という話がありましたけれど、橋梁は架け橋としてのいろいろな物語の舞台装置のような意味もあると思うのです。それをいかにデザインしていくか。そこにどのように色彩を関わらせ見せていくのか。そういう観点もあります。

今回は隅田川がテーマです。先ほど杉山先生がおっしゃられたように、吾妻橋だけではなく、他橋を含め全体を捉え考えることも必要です。隅田川は、川の長さ23kmで全体視すると大蛇のよう、そういうイメージで捉えることもできます。また、川のサイコベクトル（心理的誘引力）は、上流から下流への流れそのものであり、それに直交する形が架橋サイコベクトルなんです。さらに橋梁には構造様式による多様なサイコベクトルがあります。例えばトラスは三角形の連続によるリズムカルな視覚的誘引力が感じられる。これを的確に生かす色彩ではないとまずいわけです。

後ほど吾妻橋のCG案が映されますが、全体的に観て、赤色の吾妻橋は気色が悪く感覚的に違和感がある。これは、おそらく背景にある墨田リバーサイド地域の変わりゆく周辺環境とのアンバランスな状態といえるかもしれない。赤色の吾妻橋は対比的に映る。私は、どちらかといえば対比ではなくて融和の方向性で考えています。色彩デザインは、大きく同一（消去）、融和（なじませる）、対比（強調）という3つの見せ方で、周辺との秩序や変化、調和等を目指しますが、融和のスタイルが最も吾妻橋に合っているのではないかと思います。

私はプロダクトデザインが専門ですが、商品色と異なり環境色は、ライフサイクルが長く、50年、100年は当たり前です。計画の中にいかに時間軸を盛り込むか、歴史性や将来の土地利用を含め、保存や変化要因をいかに読むかも必要です。橋梁の場合、先ほど構造や橋梁美が重要だと言いましたが、今回の橋梁は全てスチールであり、素材感が重要です。適材適色、素材に合う色はあるんですね。どう見ても、これは金属に塗ったらまずいだろう

という色があるわけです。素材感を無視した橋梁色彩はあり得ない。後ほど見て頂きますが、色彩選定の手がかりに素材感を意識しています。

以上です。

吉田

どうもありがとうございました。

時間が少ないので、早く次に進めなければいけません。

先程、宮沢さんは歩行者レベルの景観を重視し、橋上の景観の大切さを説いていました。

また日本の都市景観はヨーロッパとは異なるということも話されました。そういうことにもっと配慮して、色彩を考えなければいけないという意見でした。

杉山さんは台東区の景観アドバイザーを務めていることもあり、台東区側からの色の連続ということを重視し、落ち着いた赤系統の色を提案されました。さらに江戸友禅の色をイメージしながら、以前吾妻橋に使われていたであろうブルーも提案に入りたいということでした。

尾登さんからは融和を大切にしようという話がありました。

次に早速ですが、具体的にCGで、御三方がお考えの色を提示していただきたいと思います。

それでは先程の順番で、また宮沢さんからお願いします。

宮沢

結論から言いますと先ほど言いましたように全体のストーリーから赤がいいかという確定はまだ私にはありません。ただし地域性という意味で言うと、しばらくこの周辺歩きました。先ほど杉山さんからも色々地域の色を分析されてので、赤（朱）と言うのはとりあえず浅草地区のシンボルという意味ではありかなと思いました。ただし現在の色が全部同じ色で塗られているのですね。高欄から街路灯から橋から。これを実はメリハリをつけて、この橋の持つ構造を表現している下のアーチの部分と。歩行空間から見ますとこの街路灯は結構連続性があります。ですから歩行空間から見た連続性生かして。ここにある柵はちょっとある意味邪魔かなと。柵と高欄というのを少し落としていって、この街路灯が持つ連続性、リズム感というものを大事にする。遠景からはアーチを大事にする。という風な色の付き方がいいのではないか。

色彩の彩度とか強さについては周辺の色々なビルだとか、景観の中に沈み込まないように。吾妻橋で言うと私は一つの地域のシンボルとしての位置づけというのを出したらどうか。それから構造と歩行空間の環境性というものを表現して、アーチと街路灯を生かすような色彩の在り方がいいかと思いました。

吉田

ちょっと前の画面に戻してもらっていいですか。最終的にはアーチの色も変わって、高欄も暗くして、その他の部分は同じですね。これが宮沢さんの案ということで、保存しておいて下さい。CG作成について、ちょっと解説します。今回の吾妻橋の色彩が変えられる部分は4つに分かれています。

この画像ですと、1つは下の部分、アーチのところです。それが今、色相を変えていますけど、明るさとも鮮やかさも変えられるようになっています。



それから2つ目は地覆と呼ばれる水平のこの部分、今は赤が入っていますが、この色彩も変えられるようになっていきます。

3つ目は高欄と呼ばれる手すりの部分です。そして4つ目は宮沢さんが重視していた照明灯です。

今回この4つの部分の配色を提案してもらいます。橋脚の石材はそのままにします。宮沢さんの案は、これまで使って来て慣れている赤を活かし、照明灯の色を強調して、後は少し抑えるというものでしたが、現在の赤をこのまま再塗装する案も一つ加えておこうと思います。現在の写真の赤をもっと彩度を上げてくれますか。現在の赤は既に退色しているので、塗り直すと全体がもっと強い色になると思います。

4つの部分とも最高彩度まで上げてもらえませんか。そんなところですかね。この写真で見ると左側の手すりが塗り直されていて彩度の1.2程度あるので、この赤で再塗装するとこのようなイメージになります。これを第1案とし、宮沢さんの案を第2案とします。それでは続きまして、先ほど杉山さんは話の中でシミュレーション画像を紹介していましたが、それをもう一度再現してください。



杉山

これが、私がお願いしたものです。一体で、色相・明度・彩度でいうと一応お願いしたのは7.5 R 3/6ぐらいでお願いしようかな。後ろのポールのほうは全部ベージュということで、彩度0.5くらいでほとんど白い感じで、周辺の建物に馴染んでいこうということ。私、吾妻橋の袂のところでいつも地下鉄から上がると照明柱にいつもびっくりするんですね。何回上がっても写真撮っているのです。毎回来るたびに写真とっているのです。そのくらいびっくりする照明柱が必要なかなと思ったりしています。そうすると鉄鋼橋としても、スチール橋としてもわりと渋めな赤という感じで落ちついていて、伝統的な感じもするかなということでしたいなと思っています。

吉田

このままでいいですか。ちょっとここでも調整できますが。

杉山

いいです。調整しても、うまくできないのでこれでいってください。



吉田

それではこの杉山さんの案を第3案として留めたいと思います。ベンガラ色の単色で照明灯だけを変えています。ここが宮沢さんと違うところですね。もう一つさっきのブルーグレー案もお願い出来ますか。

杉山

グレーという中でこれは実はちょっとブルー系を入れていただいたらいかかなということ。10B 彩度は2ということでほぼほぼグレー。皆さま着物の色でなんか思いだしていただくといった感じの色ですけど、きれいなブルーということではないですけど落ち着いた感じにはなるんじゃないかな。建設当時というのもしのばれるという感じなのかな。これは推論ですけども。そういったことでは東京らしい雰囲気は出せるかなということでの提案です。

吉田

今までの赤とは違ったちょうど反対側の色相ですけれどもブルー案です。先ほどの歴史研究の資料で色彩まで確認できれば良いのですが、歴史的にもこのような色彩の可能性もあるということですね。

この写真には写っていませんが、反対側には首都高が走っています。首都高も以前はコーラルという赤系統の色を塗装していましたが、現在ではコーラルはなくウォーターサイドブルーと呼んでいる低彩度のブルーグレーを使っています。杉山さんの提案色よりも明るめだと思いますが、このブルーですと首都高との色相が近くなって穏やかな関係になります。杉山さんのブルーグレー案も加えて、この配色案を第4案として保存して下さい。では最後に尾登さん、お願いします。



尾登

こんな色だったっけ。
BG系だから全然違うと思うのですけど。

吉田

適当に直してください。

尾登

もう少し青味にふってください。私の提案色は、川の色に近い色相で日本伝統色名の錆納戸（さびなんど）5BG3.5/4です。BG系ですのでCGは、ちょっとイエローが強すぎますね。もっとブルーを感じる色です。先ほど橋梁は、スチール製でそれに相応しい色、素材感を生かす色ということで、慣用色名の鉄色（てついろ）を参考としました。鉄色は、イタリアのマリオ・ベリーニによるYBPビルの色彩提案をした際に記憶に残った色彩で、ベリーニは、構造体に鉄色に近似する色彩を好んで使っていました。鉄色は、グリーンとブルーの境界の色相を想像してください。そして明度は2.5、彩度は低めで2.5～3ぐらいのダークトーンです。CG色は、鉄色を参考しつつ日本伝統色の錆納戸（さびなんど）を提案しています。この色彩にした理由は素材感にこだわると同時に、隅田川を大蛇のイメージに見立てるということもありました。

また、文献によれば、吾妻橋は江戸期に幕府の意向で大川橋とされ、民意は江戸の東にあるから東橋（あずまばし）としつつ、今の吾妻橋に変わったと記されています。吾妻橋は東橋だった。だとすれば、五行でいう東方を示す色は青であり、隅田川（青龍）に架かる吾妻橋＝東橋は、青が一番相応しい。このように橋梁名の由来から一つのヒントを得ることもあります。

さらに吾妻橋を語るとき、浅草というロケーションは無視できない。赤のイメージの雷門にどのように繋ぐのか、はたまた断ち切るのか。私案の吾妻橋は、赤で繋ぐより、一旦、断ち切りながら、雷門の赤をシンボリックに見せることを良しとしています。景観のシークエンスからいうと、ダラッと繋げるのではなくて、一旦断ち切ったほうが浅草の赤のイメージは目に飛び込んできて強烈になると想像しています。先ほど物語性といいましたが、カラープランニングは、色彩でどのような物語を演出しようとするのかが重要で、それは、ヒトモノ場の関係性への総合的解答といえるかもしれません。私の場合、吾妻橋は、赤ではないときに何色があるのといった時にブルー系しかなかった。

吉田

他の部分はいいですか
照明ポールは暗くても。

尾登

構造が複雑であり、CGの段階で照明ポールや高欄とか分けられない方が私はいいような気がします。まずは各部同色で観てみる。

吉田

全部同色で

杉山

もう少し青で。

尾登

そうですね
もっと青にしてくれます

杉山

もうちょっと青になりますかね。
すみません、せっかくだから。

尾登

なかなか黄味が抜けない。黄味が強いと古い感じがでてしまう。河川橋梁景観というのは、自然景観であると同時に人工的都市景観なんですね。おそらく20年30年経つと周りの環境が変わるだろう。もっと未来的な景観の創出が想像される。その時に橋梁色はブルー系かなということです。

CG、提案色まだちょっと違います。

吉田

これを第5案にしたいと思います。それでは御三方の色彩提案を、全部並べて見ることが出来ますか。最初が現在の案を再塗装した案。次が宮沢さんの案と杉山さんの二つの案。そして尾登さんの案です。今、この5つの案が揃いました。創建当初の色を忠実に再現したいという意見もあるかと思いますが、コメンテーターにも御一人ずつ、この色彩提案を見ながら、ご意見をいただきたいと思います。5案を小さくして並べられますか。

中井

特にどれがいい、ということは申し上げませんが、私は塗り替えられた吾妻橋の赤と蔵前橋の黄色を見て、浅草に遊びに来る回数が激減した人間ですので、それだけ言えばわかるかと・・・

三点、コメントしたいと思います。

第一に、いま永代、清洲、勝鬨の3橋が重要文化財ですが、本来であれば、隅田川橋梁群として、まち並みでいうところの重要伝統的建造物群にも相当するものだ、という意識が重要だと思います。個別の橋をとりあげて云々するだけでは、隅田川の橋のよさは生かせない。

第二は、隅田川の橋が設計された当時は、エンジニアの間で橋梁美学が盛



んでした。メインの話題は、多様と統一というドイツからきた美学の論理です。多様なだけではバラバラな印象にしかならず美は生まれません。統一だけでも退屈でつまらない。多様性を保ちながら一本どうやって芯を通すか。簡単にいえば、そんな理論です。そういう美学意識を背景に当時のエンジニアたちは設計していました。橋梁群としての色を考える際にも、全体で見たときに全部似たようなものでもつまらないし、バラバラでも美しさは生まれません、というあたりをどう考えるか、という視点があると思います。

三点目は、さきほどの杉山先生のお話から思ったのですけれども、私は冒頭の講演で、帝都復興でいまの東京に生まれ変わったと言いましたが、見方を変えれば、帝都復興で江戸という都市空間やその風情が滅びたわけですね。ですから、脈々と息づく江戸の美学のようなもので一本芯を通す、という考えかたもあるかもしれない、と思いました。以上です。

吉田

では次に中野さん、お願いします。

中野

先ほど言いましたように、変えるのもいいのですが、一度原点は何だったのか、と振り返ってみるのも必要か思います。緑が本当に正しいかどうかはもう少し検証すべきだと思いますが。

東京都の谷内課長さんの見解は塗料が劣化していたりしているのです、こすり出しができないということだそうです。実際、橋梁の担当課長にお聞きすると、東京都の場合は原則として構造体はケレンを全部かけるので色は残っていないはず、とおっしゃっていました。しかし私が横浜でほぼ同じ年代の震災復興橋梁の架け替えに伴うイメージ保存のプロジェクトに関わった際に、古いオリジナルの色をこすり出してみてくださいとお願いしたら、きちんと出たんですね。そういう事実もあります。

あの当時、昭和の時代にはそういう発想はなかったかもしれませんが、今は復元というのが一つの流れにもなっていますので、一つの案としては復元案もあって欲しいと思いますね。ただそれが、皆さんが良くないとおっしゃるのであれば、まったく次のもの考えるのも重要だと思います。

もう一つの視点は東京都の歴史景観部会のほうで8橋を選定されていますが、東武鉄道橋とか総武線の鉄道橋も田中豊の設計で、リベット構造の同時期の作品です。ですから一連の橋梁群を伝統的建造物群保存地区のような形で、もう少し広い視点で十数橋を一つのストーリーでつくり直すというのも大事だと思います。

私は、推測ですが十数橋は設計の方々が連携をして色を決めてきたのではないかという想いがある。さきほど中井先生から当時の設計思想をきちんと説明されましたね。東京市と内務省の復興局とが連携しなかったというのはありえない。とすると、その時のストーリーを検証していくには、復元ということを一回やってみようよ、と言いたい。全ての歴史的橋梁群を対象に、そういう大きなロマンが欲しいな、という思いもあります。提案とすると、先ほど私のほうで映像をお見せしましたが小松崎茂の絵をベースに橋梁本体は緑系。緑のどの色がいいかというのはもう少し検証したい。まずは小松崎茂の絵のイメージがこのCGに入ってくると良い、というのが希望です。できますか？

吉田

入れてみましょうよ。

中野

近い色をつくって頂けますか。やはり細かいところは現在の橋のこすり出しをさせていただいて確認するプロセスを希望しますね。暖かくなったら私の方でボートを出して、学生の協力を得てやってみたいと思っています。できれば中井研も乗ってくれないか。歴史的橋梁だから研究室共同で。

吉田

画像を切り変えてくれますか。

中野

出せます？

吉田

小松崎さんの絵はこうですね。

中野

これを解説すると橋梁本体は緑色ベースにし、そこで高欄の色は若干変えて欲しい。地覆も少し色が異なりますね。おそらく高欄は本体と構造的に関連はしているが、一体ではなかったため、少し色を変えるべきと思います。

私達は橋梁の設計する時には、本体構造と高欄とは少し色を変えるのですね。なぜかというが高欄の材は線材ですし、構造本体は結構面が大きいので色を同じにすると失敗する場合があります。そのため一般的には微妙に変える。街路灯のあの赤は中華街というイメージを私は連想します。その意味ではあの派手な赤だけは復活させたくないですね。

吉田

あづちゃんはどうしますかね。(笑)

冗談です。

中野

あづちゃんは緑でもいいし。あづちゃんの着物を、女性だったら赤でよくて、男のアズオ君だったら緑にするとか、新しいキャラクターをつくったらどうでしょうか。

街路灯は今の柱はちょっと太いですね。ダークグレーにしてしまうと重く感じがしてしまうので、もしあの照明柱を使うのだったら、もう少しライトグレーというか、陰影が出るようなタイプに変えて、存在感を少し消したりするのも良いのではないかと思います。よろしいでしょうか。

吉田

この絵は夕焼けかな。全体に赤みがあるので赤を抜いて、現在の写真に入れたらどうなるか、ちょっとやってみますかね。

中野

細かい色は専門家に任せます。

吉田

もうちょっと下がブラウンかな。下の部分の明度下げ気味で。手すりももうちょっとグレーかな。

手すりの彩度を落としてください。照明ポールは元の絵に合わせて黒に近いですね。緑が少し入っているかもしれません。先程、緑は古めかしいという意見もありましたが、どうですかね。

中野

照明柱はポールをもう少し細くできると思いますね。あの当時は都電の架線柱の構造を背負い込んでいるので、おそらくどこかの時点で太い柱に変えられたとも考えられます。まったく意匠が変わっていますので、オリジナルに戻すという考え方もありますね。今は昔と違って鋼材の技術が発達しますので、結構オリジナルに近い太さまで戻せると思います。できれば歴史的橋梁の復元の意味を見出して、東京都さんで予算化して頂きたいですね。その時は設計協力をいたしますよ(会場から笑い)。

以上です。

吉田

まあ、そんなあたりです。

この色が違うかもしれませんが、なるべく正確に復元する方向で。復元するための正確な色彩が、今のところ小松崎さんの絵しか手がかりがないのですけど。できれば最終的には擦り出し等でさらに正確にして…。とりあえずこの辺りですね。これを6つ目の案として残しておいてください。

では小林さんお願いします。



小林

この橋だけの話なのか残り8つの橋をどうするかというのはすごく重要な話です。これを赤とすると他がどうなるのかなと考える複雑な方程式をずっと考えていたのですけれども、基本的には下のアーチと欄干を僕は分けるべきだと思います。プロポーションが全然違って見えますから。パリとかほかの国を見ても、上の部分は歩く人のための色で、下はもともとの色なのかどうなのかは別として上部と分けるべきだと思います。

今の方向はオリジナルの色を探るという方向と、そうは言っても赤いあづちゃんがいったり、赤い浅草寺の色に対してもう20年くらい普通の人が見慣れているということもあるわけです。赤系の色を抜け出せるのか、オリジナルでいくのかは結構議論のポイントだと思います。

僕は尾登さんの話がすごく分かりやすく鉄色というのは期待していました。しかし、鉄色というのはブルーなのかと思ってしまいました。私の中ではエッフェル塔の色が鉄色だと思っていたわけですが、100年くらい経っても全然周辺の景観が変わっていません。東京タワーは航空法でどうしても赤白の塗り分けがあったわけですけど、100年持つ色というのはどういう色なのかを考えなければいけないと思います。あまり赤からはずれると地元がそれで納得するのちちょっと考えてみると、一つは杉山さんの錆系の赤をもうちょっと黒っぽくするとか、エッフェル塔の例のように鉄色にすると

か。赤系の色でいくなら杉山さんのほうを詰めていくし、オリジナルがグリーンであれば、下部がグリーンで上部がニュートラルな欄干というバリエーションがあるのかなと思いました。

谷内

私としましては個人的な意見とか自分の立場とかございますけれども、今日は専門家の先生方と交じって、色々な方の意見をご紹介するという立場で参ったつもりでございますので。その点あづちゃんという地元で愛されたキャラクターをご紹介させていただきました。

それを抜きにして、今日ここに来るには大分緊張してきまして、あまり緊張してパリに行って参りまして、セーヌ川から橋ばかり見たりとか、夜はまちの川沿いを全部歩いてみたり、橋濱けで先週行って参りましたところでございます。その時に考えたことはセーヌ川の素晴らしさというのは世界がみんなですべて守っていくセーヌ川の景観でございますが、やはり隅田川もこれだけの素晴らしい構造美だったり、素晴らしい橋がこれだけ連なっていて、専門家も地元のみなさんも盛り上がっている。それからオリンピックが2020年に来るということで東京の魅力ももっと高めていこう気運も高まっております。是非これも連続性という意味で川の方向の連続性というのがひとつ重要な点と今日のシミュレーションの中で感じたことです。

もう一点は川に垂直に橋がかかっています、橋を中心にまちもできているところもございまして、是非地元の人、地元の生活、みんながWIN・WINとなるようなところをなかなか探すのが難しいですけれども、このような機会ですら議論を重ねながら、みつけていければいいと思います。

景観行政団体である台東区の景観審議会と墨田区の景観審議会。実は悩ましいのは景観行政団体が川の橋の兩岸で違ふと。そこで意見が違ふと大変でどうしようかなという悩ましいところでしたが、今回のように合同でシンポジウムができるような素晴らしい関係にあるということは大変ありがたいなと思っておりますので。是非一緒になってより良い東京をつくっていく、みんなが幸せになれるような東京をつくっていただきたいなと思いました。私、色がどれというのはちょっとわかりませんが、お願いということで最後コメントさせていただきました。どうぞよろしくお願い致します。

吉田

コメンテーターの皆様、ありがとうございました。

今6つの案が揃いました。第1案は、現況の赤を再塗装する案です。現在の退色した色の彩度が高くなります。第2案は宮沢さんの案で高欄と下部の構造で色を変えています。第3案はベンガラ色案です。これまでの意見を集約すると、多少、高欄の色彩を変えることも検討に加えても良いかもしれません。そして第4案は杉山さんの提案でブルーグレー案です。第5案は鉄色の尾登さんの提案です。そして第6案は、まだ正確な色彩が確定できませんけれども、小松崎茂さんが描いた絵から類推した深緑の提案です。中野さんからはさらに擦り出しによって、実際に使われていた色調べて復元をしたという意見がありました。この6つの案が揃いましたが、ここで会場からいくつか意見を聞いてみましょう。

では、白濱さんどうぞ。

白濱

JUDI 関東ブロックの白濱でございます。今日は橋の話ということで興味深く聞かせていただきました。また冒頭では先生方からなかなか聞けない橋の歴史のお話をいただき感慨深いものでした。このように盛況で大きな会になるとは思っておらず、意見も言うつもりでもなかったのですが、聞いておりました少しおっ?となったものですから発言させていただきました。

まずはこの隅田川に架かる一連の橋の レインボーカラーに大変驚きました。と同時にがっかりしました。また吾妻橋が赤に塗られているのを見て浅草寺、雷門の朱色が地域の全てを支配していく様にも驚かされました。本来まちの色というのは、どこに原点を持つべきかというところを考えていかなければいけない。東京のまちは非常に色が多いです。先ほど宮沢さんがおっしゃったようにビルの塔屋看板やサインを含め、色でも個性を競い合っているビル群が多く有ります。そういった都市を構成するモノの色が非常に多いということです。社会のシンボル、都市のシンボルに成り得るような社会資本でまちの景観をつくる橋というものに対して、無闇に彩度の高いアクセントカラーのようなものを付けて良いのかを考えなければならないと思います。

以前所属していました設計会社で宮沢さんの指導のもと取り組んだ横浜の西鶴屋橋なのですが、行政から上部工構造はメタルでつくれという指示でありまして、石や木ではなく耐久性、耐火性に則したアルミや鉄、あるいは場合によってはステンレスの選択を強いられたわけです。その時に私はステンレスということで、通常使われるパイプ材ではなくて敢えて無垢材を使いペンキは塗らないというデザインを行ないました。ステンレス無垢材の耐久性を利用し、サンドブラストやヘアラインまたは磨き、更に酸洗い等の多様な仕上げを駆使し加工することによって表情性をもたせた素材色で表現しようとしたのです。塗装とは違う所謂エイジングによる風合いを出そうと試みました。そういう意味でまちの歴史とともに景観が融和していく素材色の在り方が社会資本にある色彩の あり方として一つあるだろうと考えます。

東京の橋や工作物における社会資本の色の有り様の方針をまず決めて、その上で地域や単体の色を決めてゆくべきであると考えます。尾登先生のおっしゃった融和の色は環境色として素材、自然の色から発する色彩だと思います。まちに橋が出来た当時の色から考えれば、中野先生が提案しているルーツの色ということと一緒に考え、尾登先生が提案されている川の色とルーツのグリーン系の色とを勘案した色彩の方向で考えることになるのではないかなと思いました。

以上です。

吉田

どうもありがとうございました。

時間がないので、もう一人方くらいかな。

会場から

若い人の意見も聞いてください。

島津

日本色彩研究所の島津と申します。実は先ほど吉田先生からご説明してい

ただきましたが、吾妻橋の色彩計画に関しまして、東京都さんのほうで著名橋の整備計画をしていた中で、各橋それぞれ何色系統と決まっています、吾妻橋に関しては赤系統の色ということが決まっています。それを同じ赤でもどういう赤にするのか、私どもの日本色彩研究所で絞り込んでいったのです。橋の形状、下部のアーチ、上部の構造、高欄ですとか照明灯をトータルで考えて、色を最終的に提案しました。塗り替えられる前は、まさしくライトブルーの色だったのです。上も下も両方とも同じ色で塗られていました。

整備計画の中で少し歩道の幅を広くしようということで歩道の整備が計画され、それに伴ってアーチの見え方が前と少し変わりました。アーチが影になってしまうのです。日照の条件とか日陰のことも考慮して、歩行者からの視点、自動車からの視点ということで高欄の色彩、そういうのもトータルに考えて、浅草のイメージする赤、浅草寺、仲見世から来るベンガラ色。そういうことを考慮して、下のアーチはベンガラ色をイメージした赤、上の高欄ですとか照明灯をダルトーンとして抑えたトーンを使っていたのです。全く同色ではなくて、上と下を分けて提案をしました。色名で言うと上はダルトレッド、下のアーチ構造をストロングレッドということで同じ赤でもそんなに鮮やかな色ではなくて、割りと渋い落ち着いた色を提案しました。その時に仕様書、色記号、全部東京都さんに提示しました。1989年か90年のあたりに実際に塗り変え塗装されました。

それから十数年経って2005年くらいだと思いますけれども、実際に今度は塗り替えられちゃったのですね。上も下も同色で真っ赤な色彩になっちゃったのです。実際に測定してみると塗料の限界彩度12とか14という色だったのです。仕様書ですとか、提案した色というのが担当者で受け継がれずに管理がなされていないような感じがしたのです。そういう経緯がありましたのでご報告いたします。

吉田

ありがとうございました。

時間が気になりますが、宮沢さんが何か言いたそうなので。

宮沢

すみません。一言だけ、大事なことを考えていただきたいのですが、今出ている6案なのですが、私の感じでは、上の3案というのは浅草のイメージとか地域性の表現を重要視した視点かなと思いました。下の3案は素材色だとか復元色というお話がありましたが、構造だとか、建設時状況など原点的なところを橋梁として表現するという視点かと思います。下の案の考え方だと隅田川の8橋か12橋かわかりませんが、隅田川に連続する橋梁ということ考えると、ほかも同じような色になってきて、連続橋のストーリー性という意味では橋の構造を見せていくという考え方が背景にあると思うのです。

それから地域性ということになると、それぞれの橋の持つ場所性というものもありますから、赤で全部出てくることはなく、場所によって色彩も変わってくる。是非考えていただきたいと申し上げたのはプライオリティをどこにおいて判断するか非常に重要なことだと思います。

連続する橋梁群なので地域性、構造、原点も大事ですし、全部の要素は多分表現できないと思うので、その視点をどこにするかという議論を最初にすることがとても重要だと思います。たまたま3案ずつになったので、微妙な

色合いのお話になっていますが、その原点のところでもうちょっと議論を深める必要があるのではないかという感じがしましたので言わせていただきました。

尾登

サンチャゴ・カラトラバという私が好きな構造家さんがいます。彼の橋はヨーロッパで多く、現場を見て廻ったことがあるのですが、ほとんど白い橋梁でした。構造美を端的に見せるとき、色彩にあまり軸足を置かない。造形性は、形体（構造）-素材-色彩の順でこだわるべきだということを何となく感じさせます。赤にするのだったら、赤に負けない形体（構造）を造らないとまずいですよ。これ建築でもそうだと思うのですけれども、安易に伝統色をつければ良いとか、地域性あるいは個性を色彩に置き換えれば良いという発想では、表層化粧色の域を脱することは難しいように思います。

中野

がこのフォーラムの言いだしっぺの一人なんですが、出来れば専門家の人達の議論だけではなくて、地元一般市民の意見を聞きたいと思って、これを企画したつもりです。少し時間延長が可能であれば地元の方の意見も聞きたいのですが、無理でしょうか。

栗原

申し訳ないのですけれども6時までには全部片づけないと色々入っているものでちょっと難しいので。

中野

それでは紙に意見を書いていただきたいですね。特に地域性ということで本当に地元の方が、赤が好きなのか、25年前に赤でハレーション起こしたという方がいるのではないかなと思うんですが。この際はっきり書いていただけますか。会場の皆さんが、赤が良いということであれば、私は赤で納得しますが、これは地元の人達だけではなくて、都民全体なり、海外からも色々なお客さん来るんですね。そういう場所だとかいうことをわきまえて、決めて行きたい。そういう思いでこの企画を皆さんに声がけしたということ、それだけは言いたい。時間ですね、失礼しました。

吉田

吾妻橋はこの地域にとって、とても大切な歴史的な景観資源です。さらにはこの地域のためだけではなく、日本全体を見回しても、このような美しい橋は多くはないので、再塗装する際の色彩を慎重に検討したいと思います。今日は少ない時間でしたが、6つの案が提示されました。今日、提案された案が、そのまま具現化するという事はないと思います。さらに調整を行って最終的な判断を下すことになると思いますが、今日の段階で、会場に足を運んでいただいた皆様の意見をまとめておきたいと思います。6つの色彩計画案の中から、最も良いと思う案、そして2番目に良いと思う案の二つ案をアンケート用紙に書いてください。また自由に意見を書ける欄を設けていますので、なるべく多くの方々に意見をいただけると有り難いと思います。

最後に順番をもう一度確認します。

上段左から1、2、3となっています。そして下段に行って左から4、5、



6 となっています。

1 番目は現状の赤をもう再度塗り直す案です。

2 番目は上部と下部を少し変えて、高欄の色彩も変えた案です。

3 番目がベンガラ色の案です。

4 番目がブルーグレーの案。

5 番目が鉄色。

そして 6 番目が創建当時の色彩を復元する案です。

この中で 2 つ選んでください。意見があれば下の欄に書き入れて下さい。

今日は多くの人にお集まりいただき、本当に有り難うございました。これで都市デザイン交流会フォーラムを終了致します。



『隅田川の景観・歴史的橋梁の文化的価値を考える』会場アンケート投票結果



第1案 (投票結果：1位 5票 / 2位 2票)

■マンセル値	下部アーチ部	05-40V	5R4/12
	高欄 手すり	05-40V	5R4/12
	照明柱	05-40V	5R4/12



第2案 (投票結果：1位 4票 / 2位 12票)

■マンセル値	下部アーチ部	05-40X	5R4/14
	高欄 手すり	05-30T	5R3/10
	照明柱	05-40X	5R4/14



第3案 (投票結果：1位 23票 / 2位 12票)

■マンセル値	下部アーチ部	07-30L	7.5R3/6
	高欄 手すり	07-30L	7.5R3/6
	照明柱	25-75A	5Y7.5/0.5



第4案 (投票結果：1位 10票 / 2位 11票)

■マンセル値	下部アーチ部	69-50D	10B5/2
	高欄 手すり	69-50D	10B5/2
	照明柱	65-60B	5B6/1



第5案 (投票結果：1位 8票 / 2位 24票)

■マンセル値	下部アーチ部	42-30H	2.5G3/4
	高欄 手すり	42-30H	2.5G3/4
	照明柱	45-20B	5G2/1



第6案 (投票結果：1位 23票 / 2位 10票)

■マンセル値	下部アーチ部	42-30F	5G3/3
	高欄 手すり	45-60B	5G6/1
	照明柱	45-20B	5G2/1
	地覆	25-70A	5Y7/0.5

整理 番号	あなたは「吾妻橋」の色を塗り替える際、どの案がいいと思われましたか？		自由意見・コメント
	第一希望	第二希望	
			「隅田川の景観」についてご自由にお書きください。
1	3	5	照明のポールの色は目立たないほうが良い。橋の色は彩度を現状より低くすべき。
2	3	6	色も大事ですが、色が乗っている素材感、テクスチャも大事だと思います。
3	3	2	橋とポールとは色を変えた方がよい。下部は2が良い
4	3	5	地域性がありながら、将来でも落ち着くような色がいいと思います。景観づくりはまちづくりだと思うので、まちも含めた川の景観づくりを考えてほしいと思いました。100年後にも歴史性の感じられるまちづくりに期待
5	3	6	隅田川の橋梁は当時の技術者が、多くの種類の形式を作ったので同じような色の橋ばかりではなく、様々な色を使って欲しいとおもいました。
6	3	2	連続性を架橋当初から意識されていたことは新鮮な発見でした。
7	3	2	地域が大事だと思います。住民の意見も必要だが専門家と一緒に
8	3	6	全橋梁の復元色を確認しながら、全体としての(隅田川橋梁)コンセプトを明確にする。船で通っていくことを前提とする。
9	3	4	—
10	3	5	—
11	3	2	—
12	3	2	—
13	3	5	—
14	3	5	—
15	3	4	—
16	3	1	—
17	3	5	—
18	3	4	地域には赤系が定着していると思われる。だが、現在の色よりは、伝統色の渋い赤がいいと思う。塗り分けも必要と考える。
19	3	5	要素のひとつである「時間軸」を未来(これから)に据えたい。歴史的経緯を理解することも必要だが、橋梁自体にも寿命がある。いずれ更新の時期が来るはずなので、それにそう相応しい色(少し枯れた色、主張を抑えた色)が良いと思う。最後に出た意見が重要！専門家だけでなく地域住民の意見を聞くべきだ。
20	3	5	旭川の旭橋というアーチテラス橋は、近年のピンク色(コーラル色?)から当初の深緑色に戻し、非常に風景になじむ色になりました。しかし旭川の忠別川沿いは緑も多く、山も見え今も当初と風景大きく変わっていません。隅田川の場合は当初と非常に周囲の風景が変わっています。過去に戻すという選択肢を取る場合は他の橋もすべて戻すことを検討してからだと思います。いずれにせよ吾妻橋だけで最善の色を考えていくのではなく、9割なり11橋なりをトータルで検討する必要があると思います。
21	3	5	他の橋とのバランスを考慮してください。
22	3	5	今の色は、専門家の意見を参考にしていないのだから却下です。地域色から③. 素材感を生かすから
23	3	4	東京オリンピックをめどに8つの橋の明確なストーリーづけて塗り替えてほしい。※ストーリーづけは両区民の総意がほしい
24	2	3	—
25	2	3	—
26	2	3	ランドマークとして橋があって良いと思う。水上バスからの眺めも必要です。
27	2	3	大阪から来ましたが吾妻橋の赤に驚くとともに個性がって良いと思いました。来訪者からするととても分かりやすく、覚えやすくていいです。4~6案は普通の橋になってしまいます。
28	5	6	橋の構造を明確にすることが景観上重要である。地域性を考慮することも必要であるが台東区は浅草寺ばかりではない事も視点必要
29	5	6	今の赤は街にあわない。周囲のNIKKA等のCorporate color丸出しの看板を規制してほしい。
30	5	4	十人十色ですね。
31	5	4	—
32	5	2	—
33	5	4	複数の橋全体を見て計画すべきだと思う。周辺環境との調和が重要。橋の色だけが目立つ必要はない。
34	5	3	—
35	5	6	構造部材によって同色系で少し色を変えるべき
36	1	2	橋の色は時代、地域、市民の感覚、情勢によってきめられたのではと思います。歴史的に橋の色を探ることは良いと思いますが、それが後世につながることはいかなるものかだと思います。景観は復元のためでなし。環境、地域等との関係だと思います。
37	1	2	—
38	1	3	他の橋の色を考えなければならない！独特の橋として考えるべきでない！隅田川全体として考えたい！
39	1	2	第一にホームレスの問題が川の景観に違和感を持つ一つの要素かと思われます。
40	1	2	—
41	4	3	石にあわせる案も欲しい
42	4	1	昭和11年と今では周囲の環境が全く違う。元の色を提示するのは良いことだが、それをもって今の色彩に設定するのはおかしい。プロダクトデザインの観点、今の景観に合わせて「赤」の設定をそのままにするのは論外です。「赤」は浅草の地域他ではない。何を持って地域性というのか？たとえ赤が好きでも橋という構造物、景観に係るランドマークに赤を使うのは常識的に考えておかしいです。
43	4	6	橋を楽しむためにも川沿いの気持ちよく散策できるようにしてほしい

整理 番号	あなたは「吾妻橋」の色を塗り替える際、どの案がいいと思われましたか？		自由意見・コメント
	第一希望	第二希望	
			「隅田川の景観」についてご自由にお書きください。
44	4	5	落ち着いた江戸の友禅の色 ブルーグレーが良いと思う。尾登先生の長年の経験から色を入力してみるとマッチする。
45	4	5	吾妻橋は観光地の要素が大であり、地域性を主観なほうが良い。
46	4	5	橋の色は河の流れの中で決めれば良いと思います。朱にしる赤にしる浅草寺だけのいろではない。
47	4	6	仏教において「赤」は聖なる色と考えられています。田端にある赤紙仁王には、痛いところに日合い札を貼るという侵攻があり赤は炎につながり、清水のいみもあります。吾妻橋は浅草寺の賛同であれば、赤を使っても良いのですが、参道でなければ控えるべきだと思います。
48	4	6	地域性から導かれる色は時代により変わるのではないかとと思われる。個人としては構造差がわかりやすいライトグレーが良いと思った。
49	4	5	橋の色について地(ベース)の色と考えるかアクセントの色と考えるかで色が変わってくる。都市空間のベースの色として考えるべきで人間がアクセントになって映える色が橋の色をかんがえるべきだと思います。
50	4	5	基本的に色彩の先生方と同意見です。架橋当時の色彩を知る必要があるが、戻すことはないと考えます。なぜなら都市の？が戻っているからです。
51	なし	なし	チャコールグレーなど風格のある色を採用すべき。その中にアクセントカラーとしてカカを加えてもよい。都市の品格こそ目標にすべき。
52	なし	なし	昼と夜の見え方(見せ方)の異同をどう扱うか、スジの通った考え方をしてください。橋の幅が松崎茂の絵とは異なり、地覆が前に出て影をつくっている。照明ポールが低いのは終戦直前の金属供出したため
53	なし	なし	隅田川の景観を考えると 隣接する橋の色と合わせつつ部分的に地域性のライン色をいれるようにしてほしい ホワイト グレー +ライン 赤
54	ぼかしにする赤	濃いピンクのぼかし	現在の赤は雷門の赤ではなかったの？スカイツリーの粋と雅で紫色が駒形が粋で水色？ 何色でもかまいませんが、まわりとの調和と同じ色で種類？大変ちがってきますよネ 14の橋の中で一番人が集まる場所であり大変ですよね
55	X	6	彩度が高いのはX
56	6	無記	学術系の方だけで討論していて、地域の意見はどうなのでしょう。
57	6	3	高欄等とアーチは私も分けたほうが、軽快な印象になると思います。色相はわかりませんが、彩度を全体的に落として、橋の構造がもっと美しく見えるほうが良いと思います。ですので、赤でももっと彩度を落として欲しいです。暖色で2、感触で1以下が良いです。
58	6	5	夜になると橋の構造全体がライトアップされ、吾妻橋は橋下のアーチ部分を照らす。非常に景観として構造体が美観としての役割を担っていると感じました。夜の色彩も考慮していただきたいかった。
59	6	5	隅田川の周辺環境は以前に比べ良くなっていると思います。だからこそ、今後、隅田川そのものの水質向上が必要不可欠になると思いました。
60	6	3	橋一つだけの判断は難しい。全体の橋で考えるべきで答えにくい。
61	6	3	周囲も合わせ調整する必要と思う。
62	6	4	復元は復古ではなく、原点をリスペクトし、継承することでもあり、ロマンでもあるとおもう。
63	6	3	隅田川界限は写真撮影等もあって年間を通じて結構通っています(特に両国付近は江戸東京博物館へ行くことが多いのでそのついでに川をながめています。)。隅田川の整備もある程度進み、水害防止等の関係もある人工化は止むを得ないと思いますが、可能であれば自然の景観が楽しめる場所があってもいいような気がします。あと人権等の観点もあって難しいこととは思いますが、ホームレスのテント張りは撤去出来ればしてほしいと思います。
64	6	2	アーチの構造には視覚的な階層があると考えます。①橋桁→②橋脚→③アーチ→④補剛材・支材、この順に従って色の明彩度を変えるのがいいと思います。小松しげるが描いた絵はそれをいかした(エンジニアの考え)を活かしたものと思います。
65	6	3	—
66	6	5	—
67	6	2	アーチが目立つような色を変えたほうが良いと思う。緑色というのは台東区側は仲見世通りなどで緑が見られるし、隅田川ではアサヒビールのビルなどで黄色が見られるので、まとまりが良いと思うからである。
68	6	4	隅田川の全体を考えること
69	6	無記入	—
70	6	4	復元するなら6。
71	6	4	—
72	6	なし	—
73	6	5	東京都を代表するものの一つとして隅田川がある。その隅田川をこちょこちょ子供のぬり絵みたいいろいろな色をつけた橋にする必要があるのかもしれないか？せっかくの隅田川というシンボルが分割されて子供のおもちゃ箱にならないか？セーヌ川なんか、何も橋の色分けなんかしてない。クルージングして川の存在が心に焼きつく。もっと大きな目で隅田川を一つに考えたら！
74	6	5	本来の色に復元すべき。赤系は景観と調和する色ではない。
75	6	5	—
76	6	5	—
77	6	5	歩道の拡張によって、陰影ができる。構造体を濃い目、上の手すりを濃く
78	6	5	隅田川橋梁のライトアップに関して 都市整備局 都市づくり政策部緑地景観課 谷内課長へ 屋形舟で夜 隅田川を巡る際、21:00に橋のライトアップが消灯してしまいます。観光客は隅田川観光を22:00迄楽しむので橋のライトアップを22:00迄延長してください！(ほとんどの方が暗い橋に興醒めています)